

代 表 者
小 田

研 修 報 告 書

令和 5年 8月 14日

各 会 派 代 表 者 殿

呉市議会議員

小田 晃士朗
定森 健次朗
坂井 誠臣
横地 祐子

次のとおり研修に参加したので報告します。

1. 研修期日

令和5年8月1日(火), 2日(水)

2. 研修項目

中国若手議員の会 岩国市

- ① 岩国市の基地政策について～基地との共存～
- ② 地域資源の観光資源化について
- ③ 世界遺産登録への取組み～錦帯橋～
- ④ 一般廃棄物処理場における排熱利用施設について

3. 参加議員

小田 晃士朗, 定森 健次朗, 坂井 誠臣, 横地 祐子

4. 随行者

なし

【岩国市とその周辺地域において下記視察した。】

■研修項目①

岩国市の基地政策について～基地との共存～

【研修対応者】

岩国市総合政策部基地政策課	課長	石本	英二
岩国市総合政策部基地政策課	基地政策班	班長	佐伯 和彦

【研修期日】

令和5年8月1日（火）午後13時30分～午後14時30分

【研修目的】

岩国市の取り組みを本市に生かすため

【研修内容】

<概要>

国内最大級の航空基地であると共に米軍基地としては航空機の配備数最大級
所在部隊（米海兵隊、米海軍、海上自衛隊）

岩国市の面積 873.72 km²

基地面積 8.672 km²（岩国市の約1%）

戦闘機 120機、軍人軍特約 1万人

<取り組み>

平成8年から事故防止と騒音軽減を目的として国において総事業費 2560 億円。
岩国基地内の滑走路を 1km 沖合に移設する工事が行われた。

また、この沖合移設事業に並行して平成 10 年頃より、「愛宕山地域開発事業」
が行われた。この事業は沖合移設のための埋め立て土砂として愛宕山を削りその
土地を宅地 1500 戸とする計画を実施したが事業が難航し中止を決定した。その
後その跡地の 3/4 を国に売却し、国がその 3/4 のうち 2/4 「米軍家族住宅」約
270 戸を建設し残る 2/4 に野球場や陸上競技場などの整備をする。また市の保有
する残り 1/4 の敷地内には独立行政法人の医療センターが整備された。この愛宕
山地域の整備は令和3年で全て完了。

<参考資料>

岩国基地に関連する取り組みについて

【質疑応答】

Q 岩国基地に関する苦情受付を 24 時間受付とあるが、受付方法は？24 時間誰が対応しているのか？

A 平日の 8 時半から 17 時 15 分は市の職員が電話またはメールで受付
土日祝はメールと留守電話で対応

【呉市での展開の可能性】

本市に限らず、日本各地の自衛隊施設は長い時間をかけて地元住民とのリレーションを築いてきた。本市においても周囲の住宅街や学校、商店などとコミュニティーをつくらうとする努力がうかがえる。在日米軍も地元で英会話教室を開いたり、親睦会を開いたりして地元の理解を得る試みを続けている。お金の面や人の面での豊かさは、他市にないものである。一方で、「日本国ではない」「戦争が起こると危険だ」と異質なものと捉えられ物事が進まないケースもうかがえる。

呉市は呉地方総監部と共存共栄を図っているが、国防を担う拠点であることのシビックプライドの醸成とともに、より強固な関係を築くことで、ソフト、ハード面ともにより豊かに、そして安心安全のまちへと進化できる可能性は大いにある。

■研修修項目②③

地域資源の観光資源化について
世界遺産登録への取組み～錦帯橋～

【研修対応者】

議会事務局 課長 林孝 造
班長 河村 佳之
しろへびの館 学芸員 松岡 智訓

【研修期日】

令和 5 年 8 月 1 日（火）午後 1 5 時 3 0 分～午後 1 6 時 3 0 分

【研修目的】

岩国市の取組みを本市に生かすため

【研修内容】

<岩国しろへびの館概要>

全身は白く光沢があり、目だけは赤いルビーのよう。美しく神秘的な姿で人々を魅了するしろへび。昔から山口県岩国市に集中して生息し、「神様の使い」として崇められてきました。開運・金運のご利益があるとされ、大切に保護されています。

体長 180 センチ・胴回り 15 センチと大柄だけど、おっとりとした大人しい性格です。昭和 47 年（1972）に国の天然記念と指定されています。

<岩国城概要>

岩国城は、初代岩国藩主吉川広家（きっかわひろいえ）によって慶長 13（1608）年に作られた山城で、眼下を流れる錦川を天然の外堀にし、標高約 200 メートルの城山に位置していました。

三層四階の桃山風南蛮造りでしたが、築城後 7 年で一国一城令により取り壊されました。現在の天守は、昭和 37（1962）年に再建されたものです。

桃山南蛮造りの天守閣内に、錦帯橋の精密模型、写真、武具や甲冑などを展示しています。天守閣は展望台になっていて、岩国市街の眺望を楽しむことができます。

<世界遺産登録を目指して（錦帯橋）>

1673 年、岩国第三代藩主の吉川広嘉が錦帯橋を架けましたが、残念ながらすぐに流失しました。しかし改良を加えて翌年再建された錦帯橋は、1950 年 9 月にキジヤ台風による洪水で流失するまで 276 年の間、架替えを繰り返しながら威容を保ちました。流失後、鉄筋コンクリートで再建という意見もありましたが、市民の強い要望により、1953 年に再度、木造の錦帯橋として再建されました。平成 13 年度（2001）から平成 15 年度（2004）にかけて、劣化した木造部分を架け替える「平成の架替事業」を行い 2004 年 3 月、装いを新たに完成し、訪れる人を魅了し続けています。

【呉市での展開の可能性】

魅力ある観光コンテンツづくりは、新規の来訪者の取り込みのみならず、滞在の長期化、リピーターの増加につながるものであり、地域活性化を実現する大きな鍵である。また、観光コンテンツづくりを通じて、地域の多様な関係者が連携することで、地場産業の活性化や定住促進に大きな効果をもたらし、「住んでよし、訪れてよし」の持続可能な観光地域づくりが進められることが期待される。本市においても、錦帯橋や岩国城のエリアをひとつの核として、観光コンテンツのブラッシュアップを図っている。こういった観光コンテンツをつくるには、地域全体で方向性や目標の共有が大切であり本市はそれを明確にしている。呉市においては現在、観光推進体制の構築を行っているが、すみやかに体制をつくり、こういった観光戦略が呉市にとっていいか、関係者全体で共有し前へ進んでいかなければならない。岩国市は世界遺産登録といった明確な目標設定がされている。呉市でも大きなビジョンをもって、観光振興に臨みたい。

【サンライズクリーンセンターにて研修と、現地を視察した。】

■研修項目④

一般廃棄物処理場における排熱利用施設について

【研修対応者】

環境施設課 課長 古本 健二郎
サンライズクリーンセンター センター長 長福 新二

【研修期日】

令和5年8月2日（水）午前10時00分～午後11時30分

【研修目的】

クリーンセンターくれの今後の方向性の検討に活かすため

【研修内容】

■施設概要

<背景>

岩国市には「岩国市第一工場」と本市、周南市及び和木町で組織され、一部事務組合が運営していた「周陽環境整備センター」の2つの焼却施設があったが、いずれも稼働から20年以上が経過し、老朽化により処理能力が低下したことから、施設の更新が急務となっていた。

その中で下記3つの整備方針を定め、既存の施設更新事業としての位置づけにとどまらず、本市全域並びに和木町を含めた広域処理体制を確立し、循環型社会の形成に向けた基幹的事業として、新施設を整備した。

- 1 安心・安全で安定した質の高い公共サービスを提供できる施設
- 2 地域環境と地球環境の保全に貢献し、地域に信頼される融和する施設
- 3 高い機能性と経済性を両立できる施設

<概要詳細>

公称処理能力	160 t / 24 h (80 t / 24 h × 2 炉)
処理対象区	岩国市及び和木町
所在地	岩国市日の出町 2-75
敷地面積	約 21,500 m ² (余熱利用施設、災害廃棄物仮置場兼多目的広場を除く)
工期	平成 27 年 7 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日
建設費	17,450,000,000 円 (税抜き)

構造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、鉄筋鉄骨コンクリート造
階層	地上4階、地下2階
最高高さ	約25m
建築面積	約6,570 m ²
延べ面積	約13,870 m ²
煙突高さ	約26.5m
発電設備	3,900kW
受入供給設備	ピット&クレーン方式
燃焼設備	ストーカ方式
排ガス冷却設備	廃熱ボイラ方式
排ガス処理設備	乾式排ガス処理方式（バグフィルタ、触媒脱硝方式）
余熱利用設備	発電、場内・場外余熱利用
通風設備	平衡通風方式
灰出し設備	ピット&クレーン方式 焼却灰・集じん灰はセメント原料化施設でセメント原料として再利用

※20年間で113億円の運営コストを見込んでいる 5.6億/年

※蒸気で発電。工場と温浴施設。その他は売電 → 約1億800万 売上

※焼却灰はセメント原料として徳山にもっていく。宇部三菱セメント等へ搬入。

【質疑応答】

Q 建設設置までの経緯は？

A 平成22年から動き出し、場所決まりが平成23、24年頃。防衛補助金の関係で、地元住民のみならず防衛相ともはなしをしました。

Q 防衛相の補助金の種類は？

A 防衛施設周辺補修事業（75%）第一工場のあった場所に、米軍の住宅街ができる予定もあったが、米国マネーの補助はなし。

Q 地元住民からはどういった声があったか？

A 温浴施設をつくってほしいという地元要望があった。また2つの工場を1つにすることもあり、少数であったが遠くなってしまうという声もあった。

Q ゴミピットが深いが何か理由があるのか？

A 米軍との関係で高さ30mの高さ制限があるため、深く地下にほっている。

Q どのような契約形態で、建設手法は？

A JFEとJFEの子会社JFE環境サービスのJV。20年の包括契約。DBOで建設。

Q 隣接された温浴施設の利用者数は？

- A 当初 50 人/日予想であったが、現在平均 100 人/日。多い時で 300 人/日のときもある。要因として、コロナもあり近隣に温浴施設がなくなったことがあげられる
- Q 処理量は前回施設とかわっていないか？
- A 人口減少でゴミの量は下降気味であるが、前回二つの工場の処理量とかわえていない。

【呉市での展開の可能性】

呉市は施設整備の方針として、ごみ処理の安全・安定性や環境保全面、防災性能等の視点のみならず、2050年の脱炭素社会実現を推進する観点からも、新たなごみ処理施設の「建設」による施設更新を目指している。

施設の効果的な運用はもちろんですが、岩国市のサーマルリサイクルのように、プラスアルファとしてどのような機能が本市に適しているか、地形や周辺環境、そして住民意識など調査研究をしなければならない。また、本市における現在の運用状況を鑑みても、多くの課題があると推測されます。岩国市のように、市と事業者がしっかりとタッグを組んで、循環型社会の構築を目指していくとともに、地元住民にとって安心安全な施設になるよう努めていく必要がある。